



# 学校だより9月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和5年8月31日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

## 心のバトンを引き継いで

校長 岡崎 陽子

夏休みが明け、学校に子どもたちの賑やかな声が戻ってきました。子どもたちは、さっそく休み中に取り組んだ自由研究や作品を持ち寄ってお互いに見せ合ったり、休み中の思い出を話し合ったりしていました。明日からは給食も始まります。まだまだ暑い日が続きますが、「暑さ寒さも彼岸まで」と言います。あともう少しで涼しくなることを期待して、健康で元気に学校生活を送ることができるように声をかけていきたいと思います。

さて、今年の夏は、4年ぶりに新型コロナウイルス感染症に伴う様々な制限のない夏となりました。皆様もコロナ禍だったときに比べると、行動範囲が広がったり、イベントへの参加が増えたりしたのではないのでしょうか。

私は、短い時間でしたが、日限山の地域で行われたいくつかのお祭りに顔を出させていただきました。子どもたちは、学校で見る姿とはまた違った様子で、食べたり買い物をしたりすることを楽しんでいました。お祭りに合わせて、日頃は離れて暮らしていらっしゃるお子さんが、孫を連れて帰ってきているのだとうれしそうに話してくださる地域の方もおられ、改めてお祭りが地域の方々の心に深く根付いていることを感じました。

本校でも夏休み前に3年生が総合的な学習の時間にお祭りを開きました。「日限山音頭」を乾水会の方に教わり、覚えた踊りを2年生に教えていました。自分たちが作ったゲームコーナーに2年生や学援隊の方を招待して楽しんでもらいました。学援隊の方からは「3年生が2年生に教えるという関わりがよいですね。」という声もいただきました。子どもたちは、学習を通して「日限山音頭」が地域で大切にされてきたものであることを知り、地域の思いや願いを子どもたちなりに感じ取って、その心を引き継いでいきたいと考え、お祭りを開きました。大切にしていきたいものをどのように引き継いでいくかは、地域にとって課題となっていると思いますが、それは学校も同じです。

今年の夏は「4年ぶりの」という枕詞がつくイベントが多くありました。しかし、コロナ禍前と後では、開催の形や内容が変化しているものもたくさんあります。イベントの開催にあたっては、今の状況に合わせた持続可能な方法を考えていかなければなりません。

本校が大切にしてきた活動の一つにたてわり活動があります。それは、異学年の交流を通して、互いを思いやる気持ちを育てていきたいと考えているからです。また、上学年が下学年に教えるという機会をつくることで、上学年の子どもたちは大切にしていきたいものと真剣に関わり、下学年の子どもたちはそういう上学年の姿に憧れをもち、自分たちもその活動を大切にしようとする気持ちが生まれるのだと思います。いわば上学年からの心のバトンを引き継ぐと言ってもいいかもしれません。

これから実施するイベントの一つである運動会の開催方法も、昨年と形や内容を少し変化させます。詳細は10月までにお知らせいたしますが、演技は、1・2年生、3・4年生、5・6年生が一緒に行い、子どもたちの互いを思いやる気持ちを育み、学校として大切にしていきたいものを引き継いでいくことができるようにしたいと考えています。保護者・地域の皆様には、引き続き本校の教育活動を応援していただければ心強い限りです。どうぞよろしく願いいたします。